My Favorite in Harp 's song

ハープ　私の1曲

第2回 ハーピスト SANAE 『演奏会用練習曲 朝に』

偏見というのは、どの世界にもある。それは音楽という、自由かつ積極的であるべき芸術の世界でも何ら変わりはない。日本ではエレクトリック・ハープの先駆者のひとりSANAEも、おそらく等身大で捉えられていないのではないか。実際、彼女からマルセル・トゥルニエの名前が出てくるとは思わなかった。この意外性という感情こそが、われわれ受け手が抱える課題でもある。

16歳で吹奏楽の顧問の先生の目利きで、思いもよらずハープに抜擢。音大にも進み、この時点では、クラシックを中心にハープの様々な曲を奏でるハープ奏者として、「朝に」と出会った。曰く「ソナタなどと違って、初めてのハープらしい作品を弾けた時の喜びと、この曲でハープの美しさや良さ、魅力を再確認した曲として、今でも好きなハープ作品のひとつ」なのだという。一方で音楽家SANAEは、一日にして成らず。その後、他聞に漏れずクラシック至上主義だと思い込んでいた時代を経て、色々な音楽と出会い、ずいぶん時間をかけて自分の音を醸成しているうちに、エレクトリック・ハープを自らの表現拡充の手段として使い始めて、今日に至るのだという。

つまり、いま彼女の奏でる音楽を峻別して聴いているのはむしろわれわれのほうで、クラシックと現代、アコースティックとエレクトリックなどと、音楽を盲目的に色分けしているに過ぎないのではないかということだ。「朝に」という曲の選択が意外だと思う背景には、作者のトゥルニエは昔の人で、ハープのクラシックを書き上げた人という、われわれの漠然としたイメージがあるからだ。トゥルニエが生きた時代に、彼は何もクラシックの曲として「朝に」を書いたわけでもなく、当時個性的で意欲的な多くのハープ奏者や作曲家らが花開かせたフランスの楽壇で、先鋭的で演奏技巧や和声的な可能性を、ハープにおいて最大限引き出したに過ぎない。彼の作品を聴いていると、師匠のアッセルマンが急逝し、パリ音楽院の牽引という重責を任され、プレッシャーの中、師匠よりヒップな曲をたくさん書いてやろうと、曲を書き連ねていったのだろうことは想像に難くない。おそらく、彼が今も存命であったなら、間違いなくエレクトリック・ハープを手にしていたことだろう。

アルバム「Harp Shock」でハープ・シーンに少なからず爪痕を遺したSANAEだが、「朝に」を巡って「この曲でハープの魅力や美しさを改めて感じることができたから、その後の自分の道にいずれ繋がっていくことになるのかもしれません」と言及したことで、彼女の成熟しつつある今の音楽観とトゥルニエが一本の線で繋がったと共に、今後どんな音楽を紡ぎ出すのか、ますます楽しみになってきた。8月1日に東京・六本木「バードランド」でエレクトリック・ハープによる即興とゲスト朗読者を交えたライブを行う。まだSANAE体験をしていない方は、ハープの可能性の一端をぜひ体感してみてほしい。

EVENT SQUARE イベント・スクエア

- 本誌協賛 8/1 SANAE エレクトリックハープライブ「単独即興」
- 本誌主催 8/2 プレイ・ヴェルディ・ガラ・コンサート2019 ファビウス・コンスタブル、十字屋ハープカルテット他
- 6/16 西山まりえ 水戸芸術館 コンサートホールATM
- 6/28 平野花子 大阪・あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
- 7/18 井上栄利加 相模原市役所　本館一階ロビー
- 7/20 Chifumi 山口・市立しものせき水族館 海響館

The Last Chorus

●Harp Lifeでは、ハープにまつわるコンサートやイベントの協賛／協力を行っております。該当案件は、事前PRとして誌面もしくはWEBのHarp Lifeで告知する他、事後のリポートを掲載するケースもございます。但し、実施日3ヶ月を切った情報に関しては、扱いかねますので予めご了承ください。
お問い合わせ→ harplife@ginzajujiya.com

●あなたの街へ、銀座十字屋がお伺いするハープキャラバン。7月13日（土）大阪@ハートンホテル心斎橋・アゼリア、7月14日（日）名古屋@アーク栄サロンホール、各会場共開催時間：11:00〜17:00という予定でお邪魔する予定です。ぜひお気に入りの一台と出会って頂ければと考えております。どうぞお気軽に参加して下さいね。

●本誌と姉妹メディアであるハープライフWEBが好評展開中です。随時コンテンツも更新されておりますので、ぜひアクセスしてみて下さいね。

情報寄稿先：harplife@ginzajujiya.com　発行人/倉田恭伸　編集人/森　泰義

A MAGAZINE FOR THE HARP PLAYER

HARP LIFE

ハープと皆様を繋げる
オンリー・ハープなフリーペーパー

06
2019

SIXTH ISSUE
Vol.6

UNA ELECTRO ACOUSTIC

interview

ファビウス・コンスタブルに訊く

「ハープの日」
ガラ・コンサートに寄せて

8月2日、小誌ハープライフの主催で、「プレイ・ヴェルディ・ガラ・コンサート2019」が、東京・九段のイタリア文化会館で開催される運びとなった。ソロ演奏あり、大団円には総勢30名ほどによるステージでの大合奏もある、令和元年にふさわしい、華々しいコンサートになりそうだ。音楽監督ファビウス・コンスタブルに事前の意気込みを訊いた。

——以前から何度も日本に演奏で来られているようですが、その理由は何ですか?また、日本についてどう思いますか?

ファビウス(以下、F):日本は私にとって、もはや第二の故郷のようなものです。広島でNHK合唱団とのコンサートで初めて来日したとき、すぐに私は日本を深く知ることに興味が湧きました。しかし、もう到着したときから、私はすぐに日本の人々と、異文化とはいえずいぶん前から知り得ているような、深いつながりと愛を感じたのです。

——8月2日が正式に「ハープの日」として認定され、それを記念して今回のイベント「プレイ・ヴェルディ」の監督をされると聞きましたが、どのようなイベントですか?

F:日本でヴェルディを演奏するということは、まさに今日の日伊における良好な国家関係を象徴するような、芸術的成果です。それはまたハープという楽器の不滅の美しさを祝うイベントでもあります。会場では、我々プロと有志の皆さんが集まって、同じステージで曲を演奏します。「乾杯の歌」を選んだのは、人々の歓呼のメロディが、友情と優雅さを謳い上げ、まさにその雰囲気の中でこの「ハープの日」を祝おうという思いからですね。

——日本のハープシーンでは、プロとアマチュアが一緒にステージに立って、同じ曲を演奏することはめったにありませんが、その重要性について教えてください。

F:いわゆる「アマチュア」という言葉は、「音楽への純粋な愛を持てる人」を意味し、その愛こそが音楽のエネルギーそのものなのです。つまり、今日のアマチュアは明日のプロフェッショナルにもなれるということなのです。その明日に向けて、演奏を共にすることは、とても大切なことなのです。

——最後に、このイベントについて読者へメッセージをお願いします。

F:8月2日の「ハープの日」に、イタリア文化会館アニェッリホールで多くの皆様とお会いできることを期待しています。ハープと出会えたことを祝福し合い、共に楽しみ、情熱とスタイルを持って、われわれはハープ本来の真髄に触れることになるでしょう。

なおチケットは、銀座十字屋ハープ&フルートサロン店頭、もしくは同オンラインショップで好評発売中です。

> 日本の人々と、異文化とはいえずいぶん前から知り得ているような、深いつながりと愛を感じたのです。

JANA BOUSKOVA

編集長インタビュー：女王ヤナ・ボウシュコヴァ
～母なる象徴～

高い目標を立てた自分の気持ちに対し、
いかに打ち克つかが最も大切だったのです。

――日本に来られるようになって25年経つわけですが、聴衆の印象はいかがですか?

ヤナ：日本の皆さんは、確かに物静かで感情をあまり表に出さないと云われますが、私はそうは思いません。皆さんの微笑みの中に、敬愛の念が感じられるのです。心の奥深くで音楽を捉え、咀嚼しているように思えます。たとえば、イタリアの皆さんは口々に賞賛を述べ、抱きつかんばかりにステージに迫ってきたりしますが（笑）、日本の方々は人によっては目に涙を溜めて音楽を味わっていたり、手造りの品を私に手渡すために会場へ持ってきてくれたり、常に私と私の音楽と深い絆を結ぼうとしてくれる。演奏家冥利に尽きます。

――歴史のいたずらかも知れません。今やハープ界のキング&クイーンと呼んで差支えないと思いますが、グザヴィエ・ドゥ・メストレとあなたは、USA国際コンペティションにおいて、最初の挑戦で優勝できず、2回目の挑戦で栄光に浴している。あのコンペは、あなたにとってどんな経験でしたか?

ヤナ：今もイスラエルと二大コンクールなのよね。そう、当時の私に必要だったのは、プレッシャーだったのです。選びに選ばれた人たちがその技を競い合う。それは本人以外からすれば、熾烈な争いに映るでしょう。しかし、実際は誰々に勝てば満足という話ではなく、高い目標を立てた自分の気持ちに対し、いかに打ち克つかが最も大切だったのです。むしろお客様の前でソロ演奏するということの方が、コンペよりも厳しく、残酷なことです。審査員における審査も厳しい目が光っているのですから、いつもタフな心をもっていなくては。つまりソリストとして、人前で演奏するというプレッシャーをはねのけるということは、避けては通れない宿命なのです。グザヴィエも、きっと同じような気持ちだったのではないかしら。もしもコンペで敵がいるとしたら、それは自分自身なのよ。USAコンペに二度チャレンジしたのも、自分自身が納得いくようにやりたかっただけだったのかもしれません。

――今回のツアーでも演奏された「モルダウ」。これは、出色の出来ですね。やはり母国チェコの音楽ということもあるのでしょうか。

ヤナ：思い入れは強いですね。私の母もハープ奏者でした。何を隠そう、彼女がこの曲をハープで弾いた最初のひとりだったのです。それが後に周囲に請われて譜面化され徐々に広まってゆくのですが、何よりもこの曲は、「私の母の曲」なのです。以前、香港で行われた「国際チェコ・デー」の催しで、私が演奏の依頼を受けた際、母に「私が弾いてもいい?」と尋ねてから弾いたほどです。それ以来、封印を解いて、レパートリーに加えています。

――これまで、数十枚もCDをリリースされていますが、最新の情報はありますか?

ヤナ：ドヴォルザークの作曲を吹き込んでいます。スメタナと共にチェコの国民的作曲家ですが、ハープのためのオリジナル曲は残さなかったのです。先ほどのUSAコンペの話ではありませんが、彼はアメリカから招聘され最高の音楽をアメリカにもたらしました。そんな彼に敬意を表して、「アメリカ組曲」にトライしています。

――サーシャ・ボルダチョフ、ソフィア・キプルスカヤ、有馬律子…錚々たる若き才能を育てた名伯楽でもあるわけですが、「教える」ことに何かコツでもあるのですか?

ヤナ：あります。それは「尊敬」です。教える者と教わる者、両者の間にお互いを尊敬できる感情を保つことです。ただアドバイスを与えるだけではなく、生徒の良い演奏は素直に認め、それを伝えてあげることです。これはそう簡単なことではありません。なぜなら、教え手自身も学び続ける必要があるから。また、あなたの挙げた三人は、いずれも忍耐強く、ハープの練習に情熱をもって取り組み、人間的にも優れた子たちだったのです。そういう資質の見極めは、たとえゆっくりでもいつかは上達する人の発掘には不可欠ですね。

女王と呼ぶにふさわしい気品と共に、節々に慈愛を感じさせる人間性が素晴らしく、大いなる母性を発散していたのが印象的なインタビューだった。今度来日公演があったら、ぜひ皆さんにも体験していただきたいなあ。

KOJI AMADA Collection vol.2

雨田光示コレクション

「ひとつひとつの音を大切に…」というお言葉。そして、小学校6年の時に初めて我が家にハープがやって来て、その時に先生に弾いて頂いた感動も…。初めて楽器に触れたときめきもいつまでも大切にして行きたい!と思います。雨田光示先生。沢山のお教え、ありがとうございました。

赤崎敬子（ハープ奏者／講師）

前号での好評を受けて、「雨田コレクション」の第2弾をお届けする。名は体を表すというが、雨田光示氏は多くの後進を育てあげ、まさにお弟子さんたちへ「進むべき道を、光をもって指し示す」存在であったようだ。本号では、ハープ奏者であり、銀座十字屋で講師も務める赤崎敬子氏が、「文集～雨田光示先生を偲ぶ会に寄せて」に寄稿した文を、抜粋改編させて頂いた。雨田氏の遺した教えの一端を、レバーハープ習熟の際の参考にしていただければ幸いである。

♬♬ハープがうちにやって来た♬♬

アイリッシュハープの入門テキストとしては、日本では唯一と言っても過言ではない、雨田先生の「ハープをあなたに」は、本当に残念な事に絶版になっております。

今、先生の遺されたこの貴重なテキストを整理しながら想いを巡らせますと、「アマダアイリッシュハープスタジオ」は、音楽の「育みの家」だったような気がします。

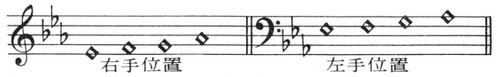
先生のレッスンを長く受けていらっしゃった生徒さんのテキストには、「1日〇回ずつ」と、塗りつぶすためのグラフが先生によって書き込まれています。

Point of PERFORMANCE

演奏のポイント

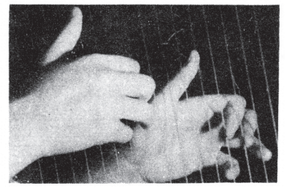
「音を美しく響かせるためには、指の動かし方や、体を楽にして、手・指の力を抜くことは、全課程を通じて原則的に応用されなければなりません。常に繰り返し、そこへ立ち戻って勉強することが望ましいのです」と雨田先生は、言及されていたようです。4本の指の音階基礎練習では、指を1本ずつ別々に動かす、とても良い基礎練習です。また、応用練習では、指番号の1番から4番、4番から1番と、ひっくり返す練習をしましょう。最後のバッハの「メヌエット」は、フレーズを大切に。左手も、歌うように演奏しましょう。

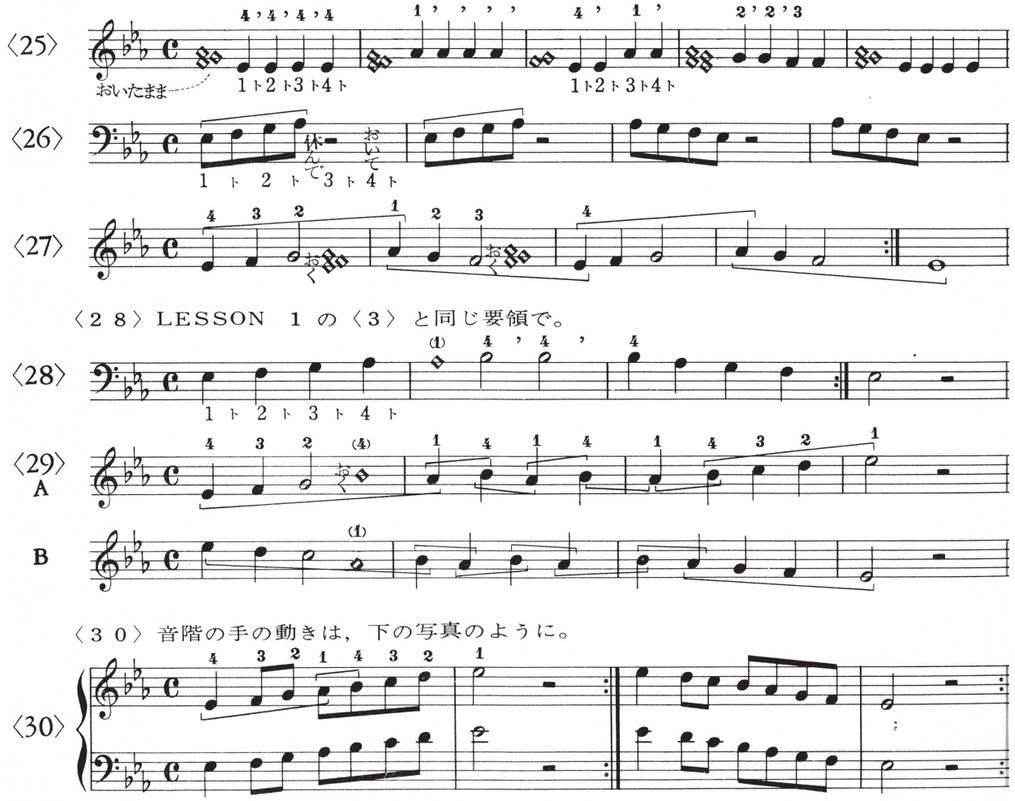
4本の指の　音階基礎練習



〈２５〉（**みふぁそら**）に４・３・２・１指を右の写真のようにおきます。おいたままで，右手４の指をひいておいてひいておいてと，LESSON １の〈２〉の練習の要領でつづけます。特に２指・３指をひく時には，他の指の形が変わったり，いらない力を入れぬように注意して練習しましょう。右手ができたら左手を，次は両手で。―〈２９〉まで同じ―

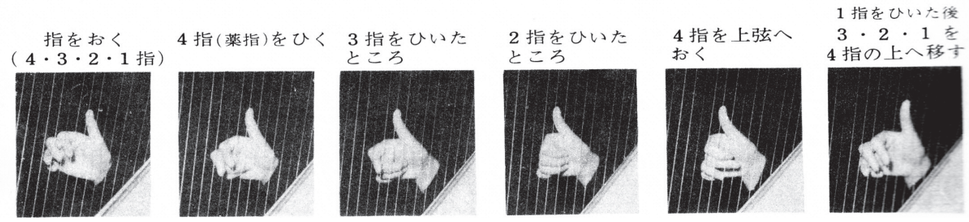
両手の場合の手の位置





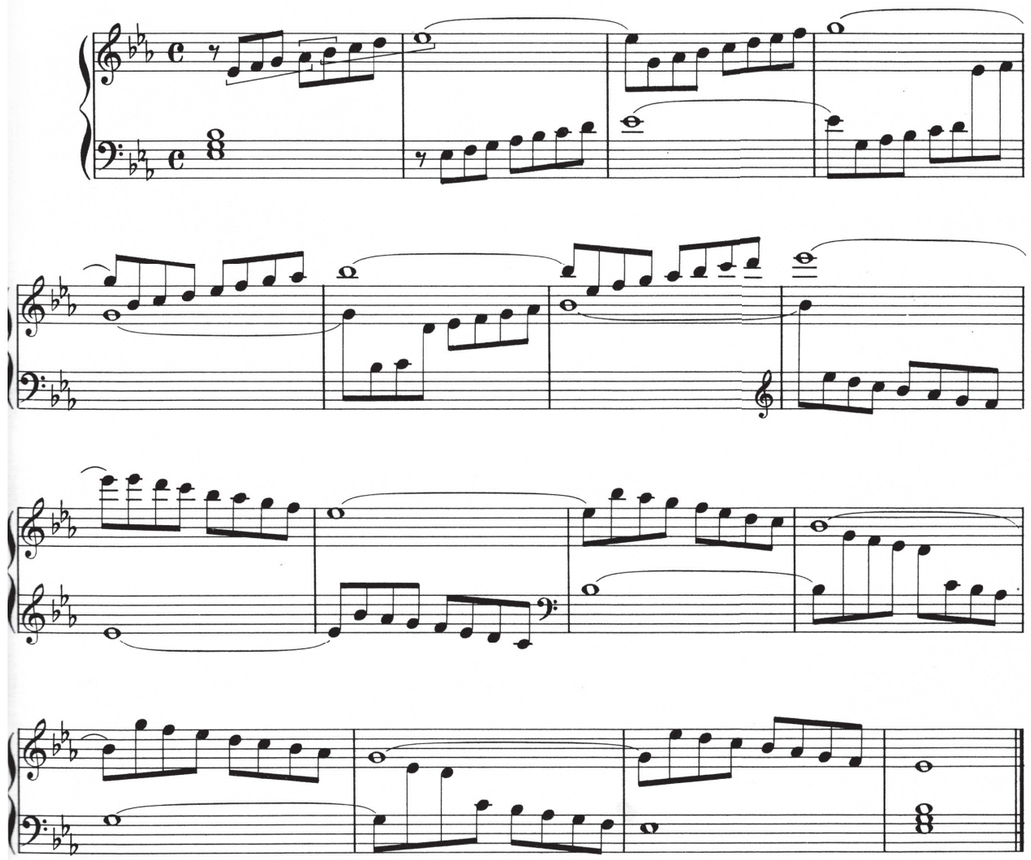
〈２８〉LESSON １の〈３〉と同じ要領で。

〈３０〉音階の手の動きは，下の写真のように。



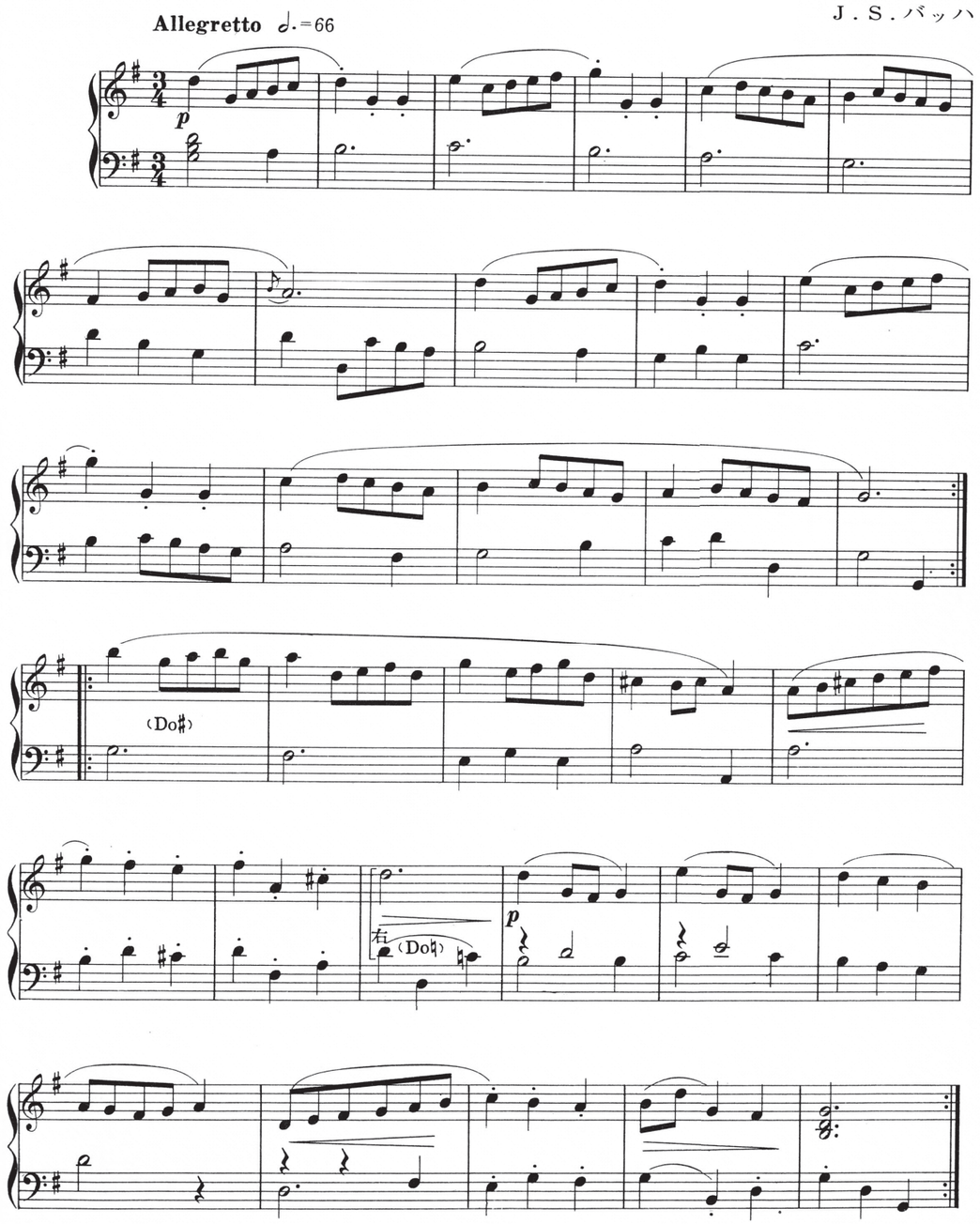
KOJI AMADA Collection vol.2

応　用　練　習



メ　ヌ　エ　ッ　ト

J．S．バッハ



KOJI AMADA Collection

Harp Caravan

ハープ・キャラバン第6回

ハープをショッピング・モールで 弟橘レイア

▲ハープの優しく清らかな音色につられて、人々が集まってくる。

まだ媒体が発達していなかった時分、盲目の伝説的ハープ奏者ターロック・オキャロランは、「アイルランド最後の吟遊詩人」としてその名を今に留めるが、彼がどうやってその名声を勝ち得たかといえば、50年間愚直なまでにアイルランド中を足で回った結果である。200を超える作曲を残し、アイリッシュハープの音色を呼ばれた先々で奏で、人々を魅惑した。ハープが長い歴史と完成度を誇る楽器でありながら、知る人ぞ知る範疇に留まっているのはなぜだろうか。弟橘（おとたちばな）レイアのイベントに出遭い、ふと考えた。

▲サルヴィ・エコーが愛器。「歌を学んでいた私にとって、ハープは心にダイレクトに染み渡り優しい波動を創る神聖な楽器で、詞を語るためにふさわしい魅力を備えた楽器」だという。

聴く者へ自ら分け入ってゆく行動力こそ、オキャロランの心の継承。

千葉ニュータウン中央駅イオンモール。午前中ではあるが、店内に設えられた会場は、8割程度のお客さんが、食い入るように演奏を聴いている。イベントは、弟橘のアルバム「優しい光と共に」のリリース・イベント&販売を、HMVが主催したものだった。スペースのすぐ隣は売り場。最初この光景を見たとき、果たしてハープ演奏がこの空気にマッチするのかと思えた。そんな中、彼女が弾き語りを始める。しかもグランドハープを弾きながら。選曲は「ハナミズキ」「カッチーニのアヴェマリア」「マイウェイ」など多彩。グランドハープの弾き語り奏者は、かなり珍しいケースで、言い換えれば自分の歌伴を自らグランドハープでこなすということだ。不思議なことだが、むしろ喧噪でせわしない空間だからこそ、ハープの優しく清らかな音色につられて、人々が集まってくる。事前に用意された席も埋まり、先入観は吹き飛んでしまった。

弟橘は、ピアノから声楽を経て、大学卒業時にハープと出会い、レバー、グランドと弾き続けてきた。レバーの音域の限界からグランドへ転向したのも、表現のためなら躊躇なく一歩前に出る姿勢が、今日の弟橘を形成したのだろう。聴く者へ自ら分け入ってゆく行動力こそ、オキャロランの心の継承であり、広範な人々へハープの理解を促進する特効薬なのではないだろうか。

季節のおすすめハープ Vol.6

季節ごとに、毎号1台ずつ
銀座十字屋がおすすめする、
素敵なサルヴィハープ。
今回は「ジュノ」です。

小さいボディで最大の響きを発するよう設計。

太陽のまぶしい季節。何かと外出も多いと思いますが、アウト・ゴーイングにはぴったりのハープが、ジュノと言えるでしょう。

よく「大は小を兼ねる」と言いますが、本物はむしろ逆に「小を以って大を知る」ところがあります。つまり、小さいからと言って〝それなりの作り方〟をしている所に、大きいものを作らせてもダメということ。ハープ・メーカーのサルヴィにしてみれば、ペダルハープを作っていたほうが会社としては利益が上がる。そこを敢えてコンパクトなハープ作りに駒を進めたのは、ひとえに少しでも多くのお客様に、ハープの楽しさを広めていきたいという信念によるものと言えましょう。

この待望のラップハープは、もちろん熟練のクラフツマンたちが、ひとつひとつの手作業で仕上げたハンドメイド・モデル。膝上で演奏するため、台座に窪みを設け安定性を向上させる工夫もなされているほか、付属する脚を装着すればイスに座りながらの演奏も可能です。タイプは、25弦モデルと27弦モデル（写真左）。また、立ち演奏をするときのためのテレスコピック・スタンド（別売）や野外やステージでアクティブに演奏するためのハーネス（別売）の準備もあり、予めショルダー・トランスポート・カバーが同梱されるなど、演奏者側のポータビリティをとことん追求した仕様になっているのです。

楽器としての特長は、持ち運びができる楽器の中では、とても大きな響板を持っていること。小さいボディで最大の響きを発するよう、響胴もジュノ用に設計されました。初心者のみならず、ステージにおけるパフォーマンスにも耐えうるクオリティを誇ります。また、銀座十字屋が行っているハープ・レンタル・サービスの対象機種なので、あなたの「ハープを弾いてみたい」という衝動にもレディ・トゥ・ゴーな、まさに至れり尽くせりのモデルなのです。

Juno

ジュノ